

全農協労連は、7月12日から開催した第745回中央執行委員会において災害対策室を設置することを決定し、全国の職場の仲間や、全国災対連とともに対策や救援にあたっていきます。

13日から開催された第115回定期大会でも代議員から被災地の実態が報告され、大会参加者にも救援カンパを呼びかけました。

【豪雨被害の実態と課題 in 愛媛】

7月17～18日、本部から愛媛県の大洲市、西予市、宇和島市などに担当を派遣し、愛媛県単協労連の吉田事務局次長、愛媛県食健連の竹中事務局長、農民連本部の笹渡会長らとともに、被災現場や愛媛県単協労連、愛媛県農協労組の仲間のところに訪問しました。現地の状況の一端を報告します。

①大洲市

大洲市では愛媛県単協労連・愛媛たいき農協労組の池田委員長(単協労連事務局次長)から話を伺いました。農協本所や支所も被害を受け、また直売所、Aコープ、SS、結婚式場、温泉施設など様々な農協の施設が集中する一帯が全て水没したということで大変な被害です。泥はかなりかきだされていたようですが、アスファルトは一面砂に覆われて、風が吹くともすごい砂埃で、住民にはゴーグルをしている人もいました。あたりにはドブのような臭いが漂っています。



↑写真の池田さんの手のところまで水が来たということです

大洲市では1995年(平成7年)のも梅雨前線による大雨洪水があり、これらの施設はその後に当時のレベルの洪水を想定してつくられているのですが、全部水没したということ

で、今回いかに大きな被害だったのかが分かります。

現在、とりあえず施設の中の物を外に運び出す作業が行われたところで、これから消毒等の作業が行われます。ガソリンスタンドやプロパン関係の機器が生きているかについては、これからチェックするということでした。また、職員で自宅になんらかの被害が出ている方は50人ということでした。



【救援カンパ振込口座】

- 中央労働金庫新宿支店「全国農業協同組合労働組合連合会」口座(普通)1002964
- 農林中央金庫本店「全国農業協同組合労働組合連合会」口座(普通)4003330
- * 送金の際には、本部にご一報下さい。また、組合費等と合わせて送金される場合は、救援カンパの旨と金額を書いて送って下さい。

②西予市 野村町の住宅街

西予市では、水路が破壊されて水田が全滅し、ミカン畑も崩落し、葉タバコ等も枯れていました。伺った際には、多くの民家では家の中の片付けが行われているところでした。7月30日に竣工予定だった給食センター（写真右）も完全に破壊され、残骸になっていました。この地域は肱川の氾濫で大きな被害を受けましたが、新聞等でも報道があるとおり、これは上流で増水したダムの水を下流に放流したことによって被害がもたらされたという見方もされています。

大きな被害を受けた東宇和農協の選果場も県内のJAグループからの支援によって場内は片付けられていますが、選果機等も水没し、機能が復旧する見通しは立っていません。今、キュウリの最盛期で、水害があった当日も1000kgのキュウリが流されたということです。

地域では、30年あまり農協の選果場での共選が生産を支えてきましたが、翻って、個人での選果（個選）はもう何年も行われていません。各農業者が急に個選をおこなうのは難しいということです。農協としては、これまで選果作業を行っていた職員も援助しながら、これまでは等級・サイズによって10ランクあった基準を、3ランクに簡略化しながら個選を進めているそうです。

東宇和農協の営農部長は、カボチャの時期までには選果場を復旧したいということでしたが、生産法人や個人ではなく「農協」の場合は施設を復旧するための公費補助は現行制度では難しいということでした。しかし、農家の生産に直接結びつく地域農業の命綱となっている施設ですから、なんとしても早期に復旧しなければならない状況です。これまでの枠組みを超えた災害支援制度の運用や確立が必要になっています。



↑ 選果場の被害と地域の状況を説明する古本営農部長

③西予市・宇和島市 崩落したミカン園地

急峻な地形でミカンを育てている園地では、土砂崩れによって園地としての復旧が難しいところがたくさんあります。山の上から押し流された土砂が施設等を飲み込んでズタズタにしています。

また、崩落を免れたミカンも、スプリンクラーが土砂で破壊されていれば灌水や防除ができません。当面、そうしたところでは手作業による灌水・防除をおこなうことになりそうですが、これまで通りの品質が担保できない可能性があります。加工用に回すなどの工夫と、そのための補助の充実なども大切になりそうです。



農道が崩れて圃地まで行けないために、灌水や防除ができないところもあります。これでは、崩落からは生き残ったミカンにも手が入られず、もっと被害が大きくなる可能性があります。また、湾にも土砂が流れ込んで赤潮が発生し、ハマチやタイの養殖にも大きな被害が出そうです。山から雨が集中的に海に流れ込んだ時間は干潮だったそうで、満潮だったら沿岸の被害はもっと大きくなっていたかもしれません。



当面、国としては「生活再建」を優先させますが、同時に生業の再建をしなければ、その後の地域での生活は守れません。激甚指定下の災害復旧事業は国の9割補助になりますが、残り1割でも「自己負担」ということになれば離農が加速すると思います。1割を自治体負担にさせるなどの要求運動や、小規模の被害であっても、集落単位で被害額を集約して復旧対象にさせていく取り組みも必要です。



また、回答を待たずに事前着工してとにかく早く進めていかなければならない状況です。施設等も通常のように規模拡大や高度化等を補助金の条件にさせたり、貸付金の無利子などの支援に留めなくて、復旧・再建に対するこれまでにない助成をさせていくことも求められています。



県のJAグループとしてもボランティアを派遣し、復旧に尽力されています。被災地の調査後、愛媛県農協労組の書記局にも訪問し、友澤副委員長（全農えひめ）、藤井書記長（全農えひめ）と懇談し、現地の状況を伝えるとともに、これからの課題と労働組合としての支援の取り組みについても意見交換をさせていただきました。

【災害ボランティア募集】

県内の各地域では社会福祉協議会を通じてボランティアが募集されていますが、ボランティアがまだまだ手薄だというJAえひめ南の管内で、農協がNPO法人と連携して、農作業を含めたボランティアを募集しているところです。えひめ南農協労組の清家嗣雄さんが窓口となって奮闘していますので、可能な方はご協力下さい。

【ボランティア作業条件】

内容 : 生活環境整備作業、農作業関係など
 時間 : AM7:30~PM16:00 …時間帯要相談
 通勤 : ボランティア団体、農協で送迎します
 昼食 : 各自で持参します
 期間 : 7月下旬から9月末まで
 短期、長期ともにお受けします（詳細は要相談）
 週末ボランティアも8月には予定（土・日限定）
 問合せ…えひめ南農協 吉田営農センター
 （清家、薬師寺まで）
 TEL: 0895-52-2939